

平成28年度道徳教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	徳島県立穴吹高等学校
校長氏名	高原清秀
所在地	徳島県美馬市穴吹町穴吹字岡33
電話番号	0883-52-2108
URL	http://anabuki-hs.tokushima-ec.ed.jp

2 研究課題

(1) 研究主題

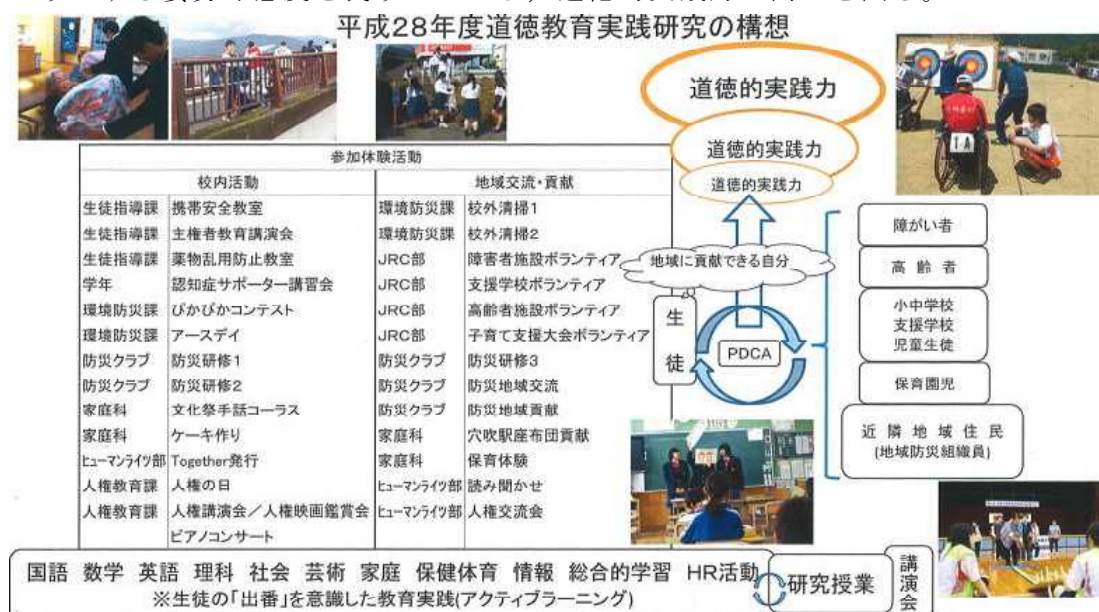
地域貢献活動を中心とした道徳的实践力向上への取り組み

(2) 設定理由

本校は、基礎的・基本的学力や基本的生活習慣の定着に課題を抱える生徒に加え、人との関わりにおいて課題を抱える生徒も在籍しているため、確固とした自分の考えを基に、相手を尊重しながら、社会生活を円滑に送ることができる力を持った生徒を育て、社会に送り出すことを教育目標に置いている。教室での学習だけでなく、地域貢献活動等で、幼児から高齢者にわたる異年齢の近隣地域の人たちと触れあうなかで、社会生活を円滑に過ごせる力を実践的に育み、道徳的实践力を高めるとともに、自律の精神や社会連帯の精神及び義務を果たし責任を重んずる態度や人権を尊重し、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことを目指す。

3 研究の概要及び特色

これまでの教育活動全体を道徳的視点から再構成し、教育内容を機能的に連携させることにより、生徒の「道徳力」や「道徳的实践力」を育成する。具体的には、教科学習やHR活動等において、生徒の「出番」を意識したアクティブラーニング等の教育実践により、道徳的視点を重視した学習活動を展開し生徒の道徳的意識を高めるとともに、地域貢献活動等を通して地域に貢献できる自分を自覚し、より主体的に行動しようとする姿勢や態度を養うことから、道徳的实践力の向上を図る。



4 研究の成果

(1) 実態把握

生徒の道德意識、道德的実践力に関わるアンケート調査を全校生徒に実施し、次のような結果を得た。



生徒の道德意識に関する「良いことと悪いことの区別をし、良いことをすすんで行っている」「人のために働くことに喜びを感じる」「公共のマナーを守ることができている」等の項目については80%の生徒が「そう思う」「少し思う」と回答しているのに対して、「自分は大切な存在だと思う」「自分には価値があると思う」「自分はまわりの人に役立っていると思う」「自分はまわりの人から期待されていると思う」については「そう思う」「少し思う」をあわせて、それぞれ57%、44%、37%、38%であり、自己肯定感、自己有用感の低さが際立っている。

さらに66%の生徒が、「暮らしている地域に誇りをもっている」と回答しているのに対し、「自分が地域の役に立っていると思う」生徒が26%、「自分が地域の人から期待されていると思う」生徒が24%であり、地域とのつながりにおいても自己肯定感、自己有用感の面で課題がみてとれる。

以上から、多くの生徒は健全な道德意識を持ち、自分の育った地域に誇りを持ってはいるが、自分に自信が無く「周囲からも期待されていない」「どうせ自分なんか」との思いから道德的実践に踏みだしかねている生徒像が浮かび上がってくる。

これらの生徒に対して、道德的視点を重視した校内での学習活動や道德的実践により、活動の中にある道德的価値観に気づかせ、さらに地域での道德的実践活動を通して地域社会に貢献できる自分への自覚を促し、より主体的に行動しようとする姿勢や態度を養うことから、道德的実践力の向上に結びつけていく方向性を確認したうえで、次にあげる道德的視点を重視した学習活動や道德的実践活動を実践した。(次項の道德的実践の概要参照)

道徳的实践の概要



校内での道徳的实践

各教科に属する科目，特別活動
及び総合的な学習の時間の特質
に応じた適切な指導をもとに

活動の中にある道徳的価値に気づく
自分



地域貢献活動

- ・高齢者から幼児にいたる地域住民
との交流
- ・地域の清掃活動，防災活動への参加

ボランティア活動を通して自分自身
の生き方について考える機会を持つ

地域に貢献できる自分，地域から
評価される自分に気づく

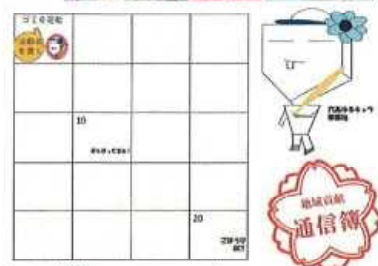


他者評価・自己評価

活動の中にある道徳的価値の良さに
さらに気づく自分
地域に貢献しようとする自分を自覚



より主体的に行動しようとする
姿勢や態度の育成



(2) 道徳的实践活動

校内での道徳的实践活動

①命の大切さを学ぶ教室

京都府亀岡市で，無免許運転少年の暴走により7歳の娘さんの命を奪われた小谷さんの体験談を通して，交通事故の悲惨さと命の尊さ，さらに周囲の温かな支えが犯罪被害者の救いになることを学んだ。

②交通安全講話・交通安全教室

自動車運転免許取得を控えた3年生，原付免許取得者を対象に美馬警察署交通課の協力を得て，運転者としての交通道徳と自他の命の尊さについて学んだ。

③交通安全マナーアップ活動

交通安全マナーアップクラブの活動として美馬署交通課の協力を得て，登下校中の自転車マナーの向上を呼びかけた。

④薬物乱用防止教室，スマホ携帯安全教室

青少年の喫緊の課題について，外部講師から学んだ。



⑤ぴかぴかコンテスト

審査員が校内を巡回して清掃状況を審査し、優秀HRを表彰する。校内美化を推進し、日々清掃活動に精励するHRや担当生徒の努力を称え、広く環境美化への関心と行動力を高めることを目的に実施している。



⑥アースデー

エコキャップ運動を中心に校内環境美化と節電等の省エネに取り組む姿勢を養う。エコキャップ運動については保護者、地域の協力も得て回収し、キャップは美馬市社会福祉協議会に託し、社会貢献につなげている。



⑦文化祭手話コーラス

高齢者や障がい者が、社会の一員として理想的な社会生活を営むことができるように援助する力を育てる家庭科科目「生活と福祉」「高齢者の生活」を学んでいる生徒が、授業の一環として取り組んでいる。



⑧ケーキ作り教室

本校OBで徳島県洋菓子協会会長の東條さんを講師に迎え実施している。手作りのクリスマスケーキを各家庭に持ち帰らせて、自ら作ったケーキが家族団欒の主役になる経験を通して、家族のあり方についても考える機会としている。

⑨映画鑑賞

「ペコロスの母に会いに行く」「つむぐもの」の鑑賞を通して、高齢者の人権を尊重する態度を養うとともに、人を個人として尊重するにはどう行動すべきか考える機会とした。

⑩ピアノミニコンサート

大正15年に地域住民から寄贈されたスタインウェイピアノによるコンサートを近隣の中学生や同窓会員等を招き年2回開催し、音楽を通して年代を超えた交流を図り芸術文化に親しむマナーを学ぶ機会としている。



地域貢献活動

①ゴミゼロ運動・クリーン運動

学校や地域の清掃活動を通して環境美化の意識を高めるとともに、ゴミを捨てない汚さない習慣を身につけ、ボランティア体験を通して、全体に貢献できる自分を自覚し、より主体的に行動しようとする姿勢や態度を養うことを目的に年2回実施している。



②防災風鈴

岩手県の南部風鈴に、生徒作成の防災標語と熊本地震被災者への応援メッセージを入れ、JR穴吹駅等近隣の公共施設に設置し、東北や熊本への復興の願いと鎮魂の祈りを風鈴の音色とともに地域に届け地域の防災意識の向上にも貢献している。



③地域自主防災組織活動への参加

防災クラブ員を中心に近隣の自主防災組織の防災訓練に参加。土砂災害に対する備えについての講演や非常食の試食に参加するだけでなく、地域住民向けのガラス飛散防止フィルム貼りの実演を担当し、地域防災を担う一員としての自覚を高めた。



④高齢者施設ボランティア

近隣の高齢者施設「清流の里」でのボランティア活動をととして、高齢者の人権を尊重する態度を養うとともに、人を個人として尊重するにはどう行動すべきかを考える機会としている。



⑤子育て支援イベントボランティア

美馬市社会福祉協議会等が主催する子育て支援イベント「みまっこフェスティバル」に参加し、子どもへの慈しみや全ての命を尊重する態度を養うとともに、将来の養育者としての自分の生き方について考える機会としている。

⑥障がい者支援イベント等のボランティア活動

美馬市身体障害者連合会体育大会や地域活動支援センター美馬地区共同作業所「やよい寮」でのボランティア活動を通して、障がい者の人権を尊重する態度を養うとともに、地域の障がい者とともに生きていく社会の中で、自分はどう生きるべきかについて考える機会としている。



⑦J R穴吹駅への座布団の設置

家庭クラブの活動として長年にわたり、秋冬の期間、通学で利用するJ R穴吹駅待合室のベンチに生徒手作りの座布団を設置し、地域の利用者に温もりを届けている。地域に貢献できる自分、地域から評価される自分を自覚し、他のボランティア活動や道徳的実践活動への積極的参加を促す機会になっている。

他者評価・自己評価

校内での活動の道徳的価値、地域に貢献できる自分、地域から評価される自分への気づきを促進し、より主体的・積極的に校内での道徳的実践活動や地域貢献活動に参加しようとする姿勢や態度の育成につなげるため次の2つの評価方法を試みている。

・生徒掲示板での広報



・地域貢献通信簿(教室)



①生徒掲示板での広報

新聞、雑誌等で報道された穴吹高校関連の記事や校内外での生徒の活動状況を広く生徒、教職員間で共有することによって、他者評価による自己肯定感の高まりを狙うとともに、活動の中にある道徳的価値への気づきを引き出しやすくしている。昨年度から行っているが、休憩時間や教室移動の際に掲示板の前で足を止め、広報内容について生徒間で会話が弾む光景が増え始めている。

②地域貢献通信簿

穴吹高校のゆるキャラ「華野助」のシールを地域貢献活動に参加した数だけ貼付し、シールの数を手がかりに、地域に貢献できている自分を自覚しやすくしている。また、一定の到達目標を設定し、目標達成に向け励みとなるような仕掛けも行っている。通信簿はクリアファイルに入れて、教室内で閲覧可能な状態にしており教室内で級友の通信簿と見比べながら、華野助シールの数を巡って「シールの数を増やすには・・・」といった会話が弾んでいる様子が見られるようになってきた。



5 今後の課題

本校での道徳的実践活動は、ここ10年来、学校行事、生徒会活動、部活動の一環として定着しているものがほとんどであり、参加生徒も生徒会役員であったり、部員であったりと固定化されている傾向が強かった。今回の道徳教育実践研究では、これらの活動を含めた本校の教育活動全体を道徳的視点から再構成し、教育内容を機能的に連携させることにより、生徒の「道徳力」や「道徳的実践力」を育成することを目指している。研究初年度の生徒参加状況をみると、昨年度よりは幅広い生徒の参加がみられたが、以前としてこれまでの傾向が出ており、生徒会役員、JRC部員、ヒューマンライツ部員、防災クラブ員等が多くを占めている。

次年度に向けては、これらの固定参加生徒を核に参加生徒の幅を広げ、より多くの生徒に対して、校内での道徳的実践活動や地域貢献活動を通して、学校内だけでなく地域社会にも貢献できているという自覚を引き出し、より主体的に行動しようとする姿勢や態度を養いたい。他者評価、自己評価のところでも述べたように、道徳的実践活動への参加に生徒達が目を向ける状況が出ているので、次年度はより幅広い生徒の参加を実現できるものと考えている。

この道徳教育実践研究の成果により、ここ10年来、穴吹高校で受け継がれてきた道徳的実践活動がバージョンアップし、次の10年、20年と受け継がれていくようになることを目指し実践研究を継続したい。

